

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成28年 3 月 31日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ「ソバデイキイキ」ジッコウイインカイ
 団体名 「蕎麦でイキイキ」実行委員会
 所在地 [REDACTED]
 連絡先 [REDACTED]
 フリガナ スズキ モトサブロウ
 代表者氏名 須々木 元三郎 [REDACTED]

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ㊦ 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	活動エリアの耕作放棄地再生、限界集落再生、及び環境保全
事業実施区域 (小学校区)	主に牧石小学校区(牧山地区) + 御津小学校区(御津草生地区)
事業 実 施 内 容	① ネット上に蕎麦処「三昧庵」をオープンさせて、他地区で同じく耕作放棄地を利用してそばを栽培している宮本老人会(北区玉柏の津川さん)や四御神の久保田さんが「蕎麦打ち教室」に生徒として参加してくれた。 ② 北区下牧町内会(会長西崎國雄さん)が、岡山市経済局農村整備課の「農業の多面的機能支払い制度」を利用し「下牧農援隊」を組織し、地域の放棄地を自主活用し玉ネギの委託生産を始めた。我々は、放棄地再生に関して側面援助をし、手弁当で協力。 ③ 参加者がなく不成立だったが夏休み恒例の「親子体験種まきセミナー」を御津公民館と共催で企画。地域の御津小学校、御津南小学校などにチラシを配布。(約400枚程度) ④ 協働のまちづくり条例を考える市民協働フォーラムにて、「耕作放棄地から地域を元気に」というテーマで発表をさせていただいた。 ⑤ 自分で作って自分でたべよう「自産自消」体験セミナーという副題で「耕作放棄地を再生して作った大麦・ソバ粉で地産池消料理会」を牧石婦人会有志の協力をいただき牧石コミュニティハウスで開催した。ここでは大麦粉100%のワッフルという新規に開発したレシピを自分たちで焼いて食べてもらったり、地元野菜がたっぷり入っただんご汁、地元産のソバ粉が10%入った二八蕎麦などを食べていただいた。 ⑥ 8月末そばの種を蒔き、11月に収穫、12月に大麦の種を蒔き、5月中旬に収穫する2毛作が、草を取らなくて済むことを実証できた。

<p>事業目的とその達成状況と効果</p>	<p>①耕作放棄地を活用し大麦・ソバの栽培を行なうという、1次産業部分において、過去3年実施してきた春ソバの栽培をあきらめた。理由は収穫時期の6月に鳥害がひどいということが原因。そして8月末播種の11月収穫に切り替えた。さらに12月に大麦を蒔き5月中旬に大麦を収穫すれば、酷暑に草刈をしなくて済む。</p> <p>②「農業体験セミナー」を公民館や地域の婦人会と共催で開催するという2回予定の企画に関しては、北公民館とのスケジューリング調整が不発に終わり、2月の1回だけのセミナーに終わった。地域に広がる耕作放棄地問題をセミナー講義で参加者に再認識してもらった。その活用を先導できたかどうかは今後のこの活動の広がりが結果という形で答えてくれる。</p> <p>③大麦粉・ソバ粉を使った特産品作りをベースに「予約制麺屋」＝三昧庵はネット上にオープンさせることができた。この仕組みを通じて他の地域で活躍している個人・団体つながりを持てるようになった。</p> <p>④「一人一屋台イベント」＝自産自消セミナーを活動エリアで実践し、ワッフル、だんご汁、蕎麦を打ってもらった。</p> <p>⑤「空き家対策」「移住者誘致活動」については、参加会員の前原君が名乗りをあげてくれた。しかし、空き家所有者との交渉が不調に終わり、最終的には実現できなかった。結果的に前原君に多大な迷惑をかけてしまった。餅は餅屋（不動産屋）に頼るべきだった。</p>
<p>企画などの工夫と情報公開</p>	<p>①「予約制麺屋」＝三昧庵のホームページをネット上にオープンさせることにより、件数は少ないが我々と同様の志向性を持った団体・個人とつながる仕組みができた。しかし将来世代である子どもたちとのつながりを、地域町内会を基盤に獲得すべくルート開拓をしていく必要性は今後の課題として残った。</p> <p>②御津草生地区を所管する御津公民館とは、本年度より協働を模索し、管内の御津小学校、御津南小学校に夏休み「夏休み親子体験種まきセミナー」のチラシを約400枚手作りして配った。いささか提案が遅かったのか、十分な協力も得られず、参加者0という結果であった。来期、継続するなら期の初めに打ち合わせに行き、年間協働スケジュールとしてすり合わせを十分に行う必要がある。</p>

<p>次年度計画</p>	<p>収穫した大麦・そばを製粉するための機械やノウハウを、今後、習得する必要性がある。県内の主な製粉所に当たりをつけて交渉したが、数10kg単位での製粉に応じてくれる製粉所は少なく、また、そうした零細製粉所には我々が求める品質の製品を加工するノウハウもない。</p> <p>今回、3月に京都にある宝田工業㈱の谷内氏と家庭用大麦製粉機に関して話し合いを持つ機会があった。2次産業化＝製粉所の立ち上げが、次年度の目標である。いうまでもなく、地方創生における農的活動は、いわゆる「6次産業」を目指す必要がある。しかし、国が行うこうした取り組みの規模は農協組織レベルの支援になり、我々が目指している「小商い」「ミニ6次産業」ではない。</p> <p>身の丈にあったレベルでの2次産業化が、来期の目標といえる。さらに、商流を開拓することにも、取り組む必要がある。長船町の名刀味噌が、我々のドラフトバレー分球大麦に興味を持ってきている。話がまとまれば使用料は、14tになる。</p>
<p>事業実施者としての評価・感想など</p>	<p>持続可能な地域づくりとは、将来世代がその夢と希望を実現できる環境を保全することにある。その意味合いにおいて、現在のこの活動は成果不足である。</p> <p>地産池消セミナーには、もっと子ども世代の参加が欲しいし、料理教室にはお母さんの参加が望ましい。</p> <p>今回、チャレンジに失敗をしたが、究極の目標は活動エリアに移住者を斡旋することである。その大きな誘因は、「ミニ6次産業」「半農半X」「小商い連合」といったライフスタイルの提案を若者に向けて発信することだと思っている。</p> <p>地域発の新しいビジネスモデルを、我々の活動は目指しており、一つの成功例がアメイバー状に広がり、この岡山の周辺部が活力ある活動の場になるよう仕掛けをしていく。</p>

■ 事業実施にあたっての協働の状況

協働した団体・企業・大学等	協働した内容
下牧農援隊(下牧町内会)	耕作放棄地の手弁当による協力
牧石婦人会	地産地消セミナーの開催
宝田工業㈱	大麦製粉機による吟醸大麦試作
名刀味噌	吟醸大麦による地域特産品作り

■収支決算書

◆収入

単位:円

項目	予算額	決算額	備考
岡山市補助金	294,000	61,400	
負担金	294,900	61,464	
参加費	30,000	7,500	
計	618,900	130,364	

◆支出

単位:円

項目	予算額	決算額	内容 (必ず記載してください)
消耗品費	74,500	38,232	インク代、手袋代等
食糧費	6,000	9,308	お茶代
広告料	100,000	3,380	写真購入代
通信運搬費	16,400	7,338	はがき代、サンプル発送費
燃料費	20,000	4,906	草刈機用燃料
使用料	120,000	41,200	クラインガルテン使用料
原材料費	50,000		
委託料	80,000	26,000	大麦乾燥代、製粉代
報償費	45,000		
旅費交通費	7,000		
印刷製本代	100,000		
計	618,900	130,364	



■事業実施経過

年 月 日	内 容
2015. 03. 30	牧山コミュニティハウスにおいて、下牧農業支援隊の設立総会に招かれる。NPO 法人日本素食協会としてこの会に参加支援を表明。
06. 19	草生圃場において、関係者とソバの花見会。併せて、先に収穫した大麦の選別・乾燥工程終了品の検収を行った。
06. 29	ソバ畑が黒化率80%になったので刈り取り開始。鳥害がひどく、刈り取りをしている間もしょっちゅうすずめが食べに来ていた。ソバの実の収穫はほとんどなかった。石の上にも3年で春まきソバに挑戦したが、これを最後の秋蒔きに切り替える決断をした。
06. 30	岡山市立北公民館に、夏休み「親子農業体験セミナー」を昨年に引き続き、共催の申し込みに行った。夏休みの最終日は行事過多のため、今回は見送ることになった。今後の予定にも乗らないようだった。
07. 09	岡山市立御津公民館に、上記の夏休み「親子農業体験セミナー」の共催を申し込みに行った。セミナーの趣旨と、子どもさんと親御さんに共通体験を通じて地域の農業の実態もあわせて知っていただき、地産地消のきっかけにしてもらい趣旨は理解いただいた。
07. 15	夏休み「農業体験セミナー」のチラシ400枚ほどを印刷して、御津小と御津南小に持参。全校児童に配布をお願いした。
08. 11	「協働のまちづくり条例を考える：市民協働フォーラム」において、活動を事例発表させていただいた。
08. 31	夏休み「農業体験セミナー」は、参加者0のため不成立。秋蒔きのソバを実施。途中、雨が降り出し、この後3回に分けて播種する。
10. 15	今春収穫した大麦を家庭用精米機で脱穀し、自家用製粉機で粉にした。用途開発を委員会各位とNPO 関係者に依頼する。
11・03	8月末に播種した秋播きソバ「さちいずみ」が、黒化率70%に達したところで、刈り取りを開始した。相変わらずの異常気象で雨が多い予報を信じ、屋根のあるスペースを利用してハゼ干しをする。
11. 09	牧石圃場で3年目の大麦播種。再生させた耕作放棄地に3年間肥料も農薬も使わずに栽培。竹チップ堆肥は来年より入れられると思う
11. 13	北区玉柏で我々同様に耕作放棄地を再生させてソバ作りに挑んでいる宮本地区老人会のメンバー7名が三昧庵に蕎麦を習いに来た。

11. 30	ソバを中心に利用していた草生圃場で蕎麦+大麦の2毛作の実験を開始する。この試みは、8月末よりソバ栽培、11月初旬刈取、11月末より大麦栽培。5月中旬に刈取、その後盆過ぎまで草を生やしておいて緑肥にして鋤き込む循環農法の実験である。
12. 24	金山寺裏山の放置竹林より切り出した竹をチップパーで微粉末に粉碎。下の放棄地に移送して堆肥化する作業を2日間に渡って実施。
2016. 01. 06	玉柏地区宮本老人会の世話役「津川さん」から預かったソバ粉を二八蕎麦に打ち上げて持参。製粉技術が未熟なため決して美味しいものには仕上がらなかった。
02. 02	地産地消セミナー参加者の差し上げる大麦を小分け包装し、さらに蕎麦打ちに使うソバ粉を篩にかけた。
02. 07	牧石コミュニティハウスにおいて、地元婦人会、老人会を中心に14名の参加者と「大麦だんご汁」「二八蕎麦」「大麦ワッフル」をいっしょに作った。この地産地消セミナーにおいて、耕作放棄地再生活動、竹林整備活動を紹介。
03. 07	京都にある宝田工業(株)から担当者を招き大麦の精麦機械に関する打ち合わせを行う。要求品質を十分に理解納得いただき、手持ちの大麦10kgを無償で精麦歩合50%まで研削していただく約束を取り付けた。
03. 08	βーグルガン大麦利用促進協議会に加盟する。
03. 17	宝田工業より精麦歩合50%の吟醸大麦とそれに伴って削りだされた大麦粉が送り返されてきた。所要時間4時間の労作である。
03. 23	瀬戸内市長船町の名刀味噌本舗に吟醸大麦を持って打ち合わせ。 ・岡山の新しい地域特産品作りに協働してあたる旨の話し合いを行う。試作のため、吟醸大麦2kgを無償提供。今後定期的に意見交換を行うこととした。
	以上